

## 校 園 名：上越教育大学附属小学校

所在地：〒943-0834 新潟県上越市西城町 1-7-1 電話番号：025-523-3610

記載日：平成28年4月20日 記載者：中島 秀晴 記載者役職：副校長

### 貴校の校風、おおまかな特色について：

1902年（明治35年）に開校した「新潟県高田師範学校附属小学校」を前身とする。数回の改称を経て、2004年（平成16年）の国立大学法人化に伴い、現校名となった。2012年（平成24年）に創立110周年を迎えた。

生活科・総合的な学習の時間を教育課程の中核に据えて、体験を重視した教育実践を行っている。



### 貴校の卒業生の活躍状況について：

追跡調査は行っていません。

卒業時に、全員が同窓会に入会する。

同窓会に関する資料は、同窓会事務局である当校が保管しています。

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

追跡調査は行っていません。

年に1回10月に当校勤務経験者及び現職教員で組織する「同人会」を開催し、同人の方々の近況や学校の現状について、情報交換を行っています。

当校勤務経験者は、ほとんどが教育員会の指導主事、公立小・中学校の管理職などになっています。また、退職後も地域の教育関係機関に勤めたり、地域のリーダー的役割を担っていたりする方が多いです。

同人会に関する資料は、同人会事務局である当校が保管しています。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取組などについて：

〈当校の研究 平成 26 年～平成 29 年 文部科学省 研究開発学校〉

◆研究主題：今を生き明日をつくる子どもが育つ学校

◆新教育課程：「創造活動」「実践道徳」「実践教科活動」「集団活動」の四つの教育活動を創設し、新教育課程のあり方を探る。

◆研究の過程：

平成 26 年（1 年次）：副題を『『感性』を培う新教科・教育活動の創造』とし、「感性」を大切にしたい四つの教育活動（「創造活動」「実践道徳」「実践教科活動」「集団活動」）を創設しました。「創造活動」を中核とした教育活動を構想・展開することで、生き生きと活動に取り組んだり、学級文化を創造したりしていく子どもの姿が見られました。

平成 27 年（2 年次）：副題を『『感性』のはたらきに着眼して問い直す四つの教育活動』とし、「感性」をはたらかせながら「材」と一体化する子どもの姿を基に、四つの教育活動を問い直しました。実践即理論、理論即実践の研究活動を積み重ねてきたところで、四つの教育活動の役割を見いだしました。また、子どもが「感性」をはたらかせながら「材」と一体化する過程において、直接体験と深い思考の連続性が明らかとなりました。そして、この一連の過程で、「感性」をはたらかせながら引き出しはぐくまれる資質・能力を意識する必要性を感じ始めました。

平成 28 年（3 年次）：副題を『『感性』がはたらく教育活動の構想・展開』とし、「感性」がはたらく教育活動の構想・展開のあり方をさぐります。どのような教育活動が、どのような子どもの育ちをもたらすのかをとらえ、よりよい教育活動をつくっていきます。そのために、様々な資質・能力の視点から、「感性」をはたらかせながら、子どもがどのように育つかをとらえることで、これまで以上に、子どもが出あう「材」を吟味し、よりよい活動のしかけや手立てを講じることにつながると考えたからです。

平成 29 年（4 年次）：研究開発学校指定最終年度

当校では、子どもをより深く理解し、目の前の子どもの姿を基に「感性」がはたらく教育活動を構想し、展開していくことで、研究主題「今を生き明日をつくる子どもが育つ学校」を具現していきます。

**特色ある4つの教育活動**

<p style="text-align: center;"><b>創造活動</b></p> <p>年間を貫く学級のテーマを基に、体験の中からわき起こる思いや願いを大切にしながら、半を生きる喜びをつくり、自分の生きる世界をひろげていく活動です。</p>	<p style="text-align: center;"><b>実践道徳</b></p> <p>道徳的な価値観を自らつくり変えながら、人間としての在り方・生き方をみつめる活動です。</p>	<p style="text-align: center;"><b>実践教科活動</b></p> <p>その教科ならではの「材」との出会いから生まれる「実学」を通して、自らの中に知識や技能をつくりながら、世界の扉をひらいていく活動です。</p>	<p style="text-align: center;"><b>集団活動</b></p> <p>様々な集団における他者とのかわりを通して、集団と一体化する中で、他者との関係の中に生きる自分に気付く活動です。</p>
--	--	--	---

  

**創造活動**

(2年生) (3年生) (4年生) (6年生)

**実践教科活動**

(2年生・実践算数科) (5年生・実践国語科) (3年生・実践図画工作科)

体験を通して、自らの価値観を基に、よりよく行動・判断する子どもをはぐくみます。

**実践道徳**

(1年生) (6年生)

人・もの・こととかわりながら考えたことや、自分の体験から得た実感に基づき、自分を見つめます。

**集団活動**

(ふれあい集會) (音楽集會) (体育集會)

学校生活の中における様々な集団での経験や集會の運営・参加を通して、人と人とのつながりを感じ、考えます。

**充実した教育環境**

のびのび活動できる広い敷地

オープンスペースのある広い教室

司書職員がいる図書館

安全・安心を守る警備員

開校した高田公園も活動のステージ

〈大学との連携〉

◆大学との連携が大変密である。

特に、大学執行部（学長、副学長、事務局長等）と附属幼・小・中学校の管理職、PTA役員が一堂に会する「三附の会」が年2回開催されている。

**「三附の会」実施の趣旨**

「三附の会」は平成10年度「北信附連上越大会」の主管運営を機に、上越教育大学附属幼稚園・小学校・中学校の三校園PTAの連携を深め、相互の情報交換を行なうために発足しました。その後、「三附の会」が中心となり、周年記念事業(H13・H23)・全附各種大会(H15・H18・H26)運営を協力して行なってまいりました。平成18年度には三校園後援会に協力して後援会規約を改正し、平成19年度よりPTA及び後援会が新体制となりました。これを機に後援会役員も「三附の会」に加わりました。平成23年度には、幼稚園の開園20周年、小中学校の開校30周年の記念事業を行い、三校園の連携がより一層深まりました。

近年では平成28年度に、全附北信附連上越大会が開催されました。附属三校園の「結束力」、上越教育大学からの借しめない支援により実りある上越での大会になりました。来年度（平成29年度）には、全附連主催「絵画コンクール2017」の主管校を勤める予定です。

今後、一層、「三附の会」が三校園と上越教育大学との連携をより確かにしていく場としていきたいと考えています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

#### 研究会における研究成果の発信

- ① 年1回6月に研究会（2日間）を開催。毎日、県内外の教育関係者1,200人を超える参会者。
- ② 各教科等において授業公開を実施。近隣の公立中学校教員が参観。

#### 県教育委員会との連携

- ① 新採用研修として、新採用者が当校の授業を参観。道徳授業について研究協議を実施。
- ② 12年目経験者研修として、当校の授業を参観。研究協議を実施。

#### 市町村教育委員会との連携

- ① 市町村教育委員会主催の各種研修会に当校教員が講師として参加。
- ② 市町村教育委員会主催の各種研修会に当校職員も参加。当校の研究についてPR。

このように、地域の中であって、当校は先進校として、各教科等のリーダー的存在として大きな期待を集めています。



#### 附属学校の存在意識、貴校の存在意義について：

上記のように、当校は先進教育校として、各教科等のリーダー的そんざいとして、地域の学校及び教育委員会から大きな期待を寄せられています。また、当校勤務経験者の多くが各教育委員会の指導主事として、公立各学校の管理職として勤務しており、地域の教育界のトップリーダーとして活躍しています。

さらに、公立小学校ではできない大学との連携による教育研究の推進、豊かな教育環境、充実した教育設備等による先進的な取組は、地域の公立学校や地域住民からも大きな注目を浴びています。

地域の先進教育トップ校として、当校の存在意義は大きいものがあるととらえています。

